

開催日 2020年12月22日 (火)

第7回となる「オリンピック・パラリンピック教育推進プログラム」を、品川区立豊葉の杜学園にて、「義肢装具士に学ぶ」をプログラムテーマとして開催いたしました。プログラムは義肢装具士の講義と、義足ユーザで(一社)日本立位テニス協会の代表を務められている柴谷 健氏に、講演と義足パフォーマンスを行って頂きました。会場の多くの生徒たちは実際の義足利用者の方や義肢装具士に接した経験はなく、非常に興味を持って講演を聞いてくれました。

今回のプログラムは(公社)日本義肢装具士協会 障がい者/パラアスリート/P0 啓もうWGと東日本支部から、講師と運営スタッフの対応をしました。それぞれのプログラムについて解説いたします。

なお、開催時期は新型コロナウイルス感染拡大中に伴い、学校から指示される感染予防対策の方法を厳守し、当協会においても検温や手指の消毒、フェイスシールド・マスクの装着など感染予防対策を徹底しました。

講義 ～パラリンピックを支える義肢装具士～

「パラリンピックを支える義肢装具士や障がいを抱えた人々を支える義肢装具」について、義肢装具士による講義を行いました。「パラリンピック」の成り立ちや、その競技を支える「義肢装具士」について詳しく説明しました。

会場の生徒達は、初めて聞く「義肢装具士」や、テレビでしか見た事がない「パラリンピック」について興味を持って聴講してくれました。



義足ユーザーの講演と交流

義足ユーザで(一社)日本立位テニス協会の代表を務められている柴谷 健氏からは、怪我に至った経緯や努力をすることの大事さと、柴谷氏が普及活動している障がい者による「立位テニス」について講演をして頂きました。

柴谷氏は代表であると共に、選手でもあります。現在、柴谷氏は世界ランク6位であり、パラリンピック競技に発展するように活動されています。



義肢装具展示

義足・義手、体幹・下肢装具を30点ほど展示し、実際に見てもらいました。開催時期はコロナ禍であったため、展示してある義肢装具も観覧が終わる度に消毒を実施し、感染リスクを限りなく減らすよう努めました。生徒達は、初めて見る「義肢・装具」に興味を持って観覧していました。



講演をいただいた柴谷氏より

短い時間でしたが、生徒達には有意義な講演を提供できたと思います。また、このプログラムの受講を通じて、障がい者の方々や義肢装具の理解を深める契機としてもらい、「障がい者理解」・「ボランティアマインド」を育み、社会で活躍して欲しいと思います。



昨年、柴谷氏がサインした色紙も、校舎の入り口に飾られていました。



アンケート（生徒の記述感想）

- ・忙しい中ありがとうございました。またお越してください。
- ・楽しかったです。
- ・障がいがある人の気持ちなどを知ってやっぱり普段の生活で困っている人が沢山いると思うから困っている人がいたら助けようと思いました。
- ・義肢装具の細かさを知った。
- ・聞いて知った事の他にも色々あると思うので、それを自分で調べてみたいと思いました。
- ・義足を付けての動きが、とても上手に出来ていて驚きました。
忙しい中来てくださり、わざわざありがとうございました。
- ・世界ランク6位だなんて凄いなと思いました。
- ・柴谷さんの事もっと知りたいです！！スキップなどが出来ているのが、疑問に思いました。
- ・勉強になりました。ありがとうございました。
- ・義肢装具士の方は、義肢を使う人に対してのものでサポートする事が分かりました。
- ・スロープや坂なども普通に義足で歩けると思っていたけれど、そうではない事が分かり、義足の人が坂などを大変そうに登っていた時は手伝いたいと思いました。
- ・障がいの人の関心が深まった。
- ・義肢はいくらしますか？義肢は作るのに何分かかりますか？
- ・今までは障がい者について知っている事があまり無かったですが、今回の事でとても義肢装具などに興味を持ちました。ありがとうございました。
- ・義肢装具の作っている姿、そしてパラリンピックを見てみたいです。
- ・足がない人や腕がない人でも、こんなふうに道具を使って大会にも出れるし、人のために義肢を作ってくれる人も凄いなと思いました。
あと柴谷さんが、諦めずにやればよいという風な事を教えてもらえ良かったです。
- ・今回の講義はとても学びになった。義足を使っているかいないかが分からないくらい、自然に歩いている事が凄いなと思った。
- ・こういう仕事があるのを初めて知った。また義足にも色々な種類があるのを知った。
- ・1つ1つに普通の人とは、少し遅れてしまうかもしれないけれど、慣れれば速く出来る事を知って驚きました。